

## 「危険が私たちの現実～DANGER IS OUR REALITY」

パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区：紛争と占領が教育に与える影響

### 概要

パレスチナの子どもたちは生まれてからずっと、軍事占領と紛争下で暮らしています。こうした状況により、子どもたちの安全や発達、健やかな成長（well-being）やメンタルヘルスにいたるまで、あらゆる面で影響を受けています。教育を受ける権利を保障することはもちろん、占領・紛争下において、学校は子どもたちにとって安全な場所かつ希望の源とならなくてはなりません。それにもかかわらず、多くのパレスチナの子どもたちは、「教育への攻撃<sup>1</sup>」や、学校近くでの軍の検問、軍事行動などにより、通学中に危険にさらされ、教室にいても学ぶ権利を侵害されることもしばしばです。

国連機関および NGO から構成される、世界的な連合である「教育を攻撃から守る世界連合（Global Coalition to Protect Education from Attack : GCPEA）」によると、世界全体で、教育機関への攻撃は増加しています<sup>2</sup>。現在、イスラエルとパレスチナ自治区<sup>3</sup>は、子どもたちの通学に際し、最も危険な地域の一つとなっています。2013年から2017年の間に、ヨルダン川西岸地区、ガザ地区、そしてイスラエルにおいて少なくとも1,147件の教育機関への攻撃があり、何万人もの生徒たちが影響を受けました<sup>4</sup>。ヨルダン川西岸地区の多くの地域がイスラエルの実効支配下にあり、子どもたちや学校のすぐそばに法の執行者としてイスラエル軍が常駐していること、また、ガザ地区の人口密度の高さを考えると、こうした「教育への攻撃」の大半がパレスチナ自治区で発生したことは驚くことではありません。

教育クラスター（Education Cluster）<sup>5</sup>によると、2018年から2019年の間に、パレスチナ自治区での教育に影響を及ぼす攻撃の報告件数は60%近く増加しており<sup>6</sup>、当自治区における教育への脅威は増える一方です。国連人道問題調整事務所（OCHA）の推計によると、パレスチナ自治区の50万人以上の

---

<sup>1</sup> 本報告書では、Global Coalition to Protect Education from Attack による定義を使用。教育への攻撃とは、生徒、教育、あるいは教育機関に対する、政治的、軍事的、イデオロギー的、党派的、民族的、宗教的な目的、あるいは犯罪を目的とした、あらゆる意図的な脅迫や武力行使を指す。詳細は、<http://www.protectingeducation.org/what-attack-education> を参照

<sup>2</sup> GCPEA(2018), Education Under Attack 2018, <http://www.protectingeducation.org/news/attacks-education-worsening-globally-education-under-attack-2018-shows>

<sup>3</sup> GCPEA による背景説明は、[http://protectingeducation.org/sites/default/files/documents/eua2018\\_israel-palestine.pdf](http://protectingeducation.org/sites/default/files/documents/eua2018_israel-palestine.pdf) を参照

<sup>4</sup> GCPEA(2018), Education Under Attack 2018: Country Profiles – Israel/Palestine, [http://protectingeducation.org/sites/default/files/documents/eua2018\\_israel-palestine.pdf](http://protectingeducation.org/sites/default/files/documents/eua2018_israel-palestine.pdf)

<sup>5</sup> 人道支援を行う際、個々の機関が個別に支援を行うのではなく、分野（クラスター）ごとに、NGO、国連諸機関、その他のパートナー等が調整・協調を行う。教育クラスターとは、教育分野における人道支援に関するもので、支援を調整し、衡平な教育を提供するという目標を共有して活動を行う。

<sup>6</sup> 教育クラスターの記録によると、教育に影響を及ぼす攻撃件数が2018年は206件だったのに対し、2019年は328件となり、19,913名の生徒に影響を与えた。

子どもたちはさまざまな困難に直面しており、安全かつ子どもにやさしい環境で、質の高い教育を受けられずにいます<sup>7</sup>。

学校や生徒、教師が攻撃に晒されれば、教育を受ける子どもの権利は脅かされます。さらに、今回調査対象となった子どもや教師、そして親たちは、「法執行」の活動の一環としてなされる軍事行動を非常に恐ろしいものと感じ、学校が安全な場所ではないと感じる、と明確に述べています。この報告書では、こうした状況も取り上げています。

パレスチナ自治区で続く軍事占領下で見られるような紛争下での教育への攻撃は、国際人道法および国際刑事法に違反するものです<sup>8</sup>。学校および病院への攻撃は、国連安全保障理事会の子どもと武力紛争に関する決議で明確に規定され強く非難されている紛争下における「6つの形態の子どもの権利の重大な侵害行為」の一つでもあります<sup>9</sup>。

パレスチナ自治区における「教育への攻撃」は、国連によるモニタリングの対象であり、検証された攻撃については適切に報告されています。さらに、教育クラスターや多くの人道支援団体の尽力により、支援を進めていくうえで必要となる子ども自身がどのようなことに脅威を感じているかについてもすべて記録されています。しかしながら、これらの報告書において、子どもたち自身によって語られることで特定できるような、教育への攻撃が子どもたちに及ぼすさまざまな影響についての調査は明らかに不足しています。こうした問題意識から、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたち自身が、教育を受ける権利の侵害が長期的に及ぼす影響についてどのようにとらえているのかを把握するために、ヨルダン川西岸地区において400人以上の子どもたちに対して調査を行いました。

セーブ・ザ・チルドレンは、本調査が、教育を受ける権利の侵害が最も多く起こっている学校を対象としていることから、統計的に有意かつ全体の傾向を表すような調査ではないことを認識しています。しかし、パレスチナ自治区に暮らす多くの子どもたちが直面している困難を乗り越え、子どもたちの教育を前進させるための最善策を話し合う際に、この調査結果が役に立つと考えています。

子どもたちは、多くの攻撃や出来事から、学校は安全な場所ではないと感じ、また、教育への権利が否定されていると話しています。そのなかには、通学路での軍および入植者の存在や威嚇、軍による学校の襲撃や攻撃、学校周辺や学校内での入植者による暴力や破壊行為、軍の検問所での脅迫やハラスメント、逮捕・拘束、そして安心して通学できる交通手段がないことなどが含まれました。

<sup>7</sup> Humanitarian Needs Overview 2019, [https://www.ochaopt.org/sites/default/files/humanitarian\\_needs\\_overview\\_2019.pdf](https://www.ochaopt.org/sites/default/files/humanitarian_needs_overview_2019.pdf)

<sup>8</sup> <http://www.protectingeducation.org/what-international-laws-are-violated> 参照

<sup>9</sup> <https://childrenandarmedconflict.un.org/six-grave-violations/attacks-against-schools/>参照

また、子どもたちは、これらの脅威が、情緒的健康や安心感、学習能力、家族や先生との関係性にどのように影響を与えるのか、そして子どもたちが自分の将来についてどのように感じているのか、新たな視点を提供してくれました。子どもたちからは、通学途中や学校での恐怖や不安、ストレスの感情の現れとして、自分では抑えられない震えや失神、自信の喪失、絶望感などの身体的・精神的な症状も報告されました。

多くの子どもたちからは、教室で集中できないという困難も報告されました。通学途中での経験を思い出して考えを邪魔される、あるいは教室に座っているときに新たな襲撃や攻撃を心配して集中できない、などの困難です。子どもたちは、こうしたことがどのように自分たちの学習能力に影響を与えるのか、そして学校の周囲での軍の存在や検問所、そして教育機関への攻撃により、学校の出席日数や、時には重要な試験の機会ですら失われることによって問題が積み重なっていくことを、強く認識していました。子どもたちはまた、軍の存在や威嚇、教育機関への攻撃が、障害のある子どもや拘束された子どもといった特定のグループの子どもたちをいかにより高い危険にさらしているかについてもはっきりと言及していました。

こうした無数の危険にも関わらず、ヨルダン川西岸地区の子どもたちは驚くほど学校が大好きであり、教育の重要性を強く信じています。ただ、恐れを感じることなく学校に行きたい、教室にいる間は安全だと感じていたいと思っています。子どもたちはまた、学校がより良くなることを望んでいます。より子どもに配慮した通いやすい教室や、より良い設備を望んでおり、これまで以上に遊んだり遠足にも行きたいとも願っています。

子どもたちのメッセージは明確です。私たちの教育への攻撃を止めて、私たちの学校を安全で通いやすく、楽しい場所にしてください。

イスラエル政府およびパレスチナ自治政府、国際社会、そして多くの支援国は、子どもたちのこの要求に応え、パレスチナの子どもたちの希望が、世界中の子どもたちに起こるべきであるように、現実のものになるよう即座に措置を講ずる必要があります。セーブ・ザ・チルドレンはすべての紛争当事者に対し、国際法で定められた義務に則り、あらゆる子どもたちの教育へのアクセスを守る義務を遂行するよう求めます。